

直方ミニバスケットボールクラブだより

ミニバス共育コラム⑧

一人ひとりにとって



すべての子どもたちにとって意味ある貴重な体験に・・・

今、ミニバスケットの子どもたちも、日々練習を積み重ねながらいろいろな体験を積んでいます。みんながみんなバスケットにかなりのウエートをかけているわけではありません。バスケットをするのが何よりも好きで、と思って向き合っている子もいれば、そこまではないけど、無理なくみんなと楽しくバスケットするのが楽しくて、と活動している子もいます。また、もともと運動が得意で、という子もいれば、そんなに運動は得意でないけど、動いてみたくて、という子もいます。とにかく動きまわるのが好きで、という子もいれば、どちらかというと、ゆっくり、ゆったりしている方が好きな子もいます。

スポーツの世界では、大きな声を出すこと、積極的に動き回ること、自ら求めて動くことなどは、あたり前のように求められます。また、大声で指示が出たり、アドバイスがとんだり...。練習試合や大会とかになれば、場内の応援も含めて日常生活とは全く違う異空間に身を置いています。また、バスケットというスポーツの特徴として、身体がぶつかり合うこと、転倒することもあり、当然痛みを伴います。ひどい場合は手当をうけることになりますが、そこまででなければ、痛みをこらえながらプレーするのは通常のことです。しかし、そんなことを経験したことなく、入部して初めて体験している子もいます。

輪をかけて、今年の夏もそうでしたが、今は地球温暖化の影響で夏が暑すぎて、天気がよくても外遊びが禁止される、体育館も使用できない、などの状況が頻繁にあり、遊びも体育の学習も止められることが少なくありません。子どもたちがおもいっきり体を動かして遊んだり学習したりする機会が極めて少なくなっています。子どもたちは身体を動かすことでストレスを発散したり、リフレッシュしたりしますが、その機会が失われているということです。結果として、室内で大声を上げたり、走り回ったりして叱られ、情緒が乱れているためにそれを受け入れることができず、さらに注意され、よりエスカレートしてしまうといった悪循環になってしまいます。

日常的に、大声を出したり、ぶつかりあったりする外遊びが子どもの世界から消えています。をほとんど経験したことなく、日常的には、部屋遊びが中心で、ゆったり、おっとり過ごしてきている子もいます。いろいろなタイプの子がいます。私は、クラブでの活動は、その一人ひとりにとって意味があると思っています。というか、意味を持たせてあげることが重要だと思っています。

